

第3回石川県成長戦略会議
(個性豊かな地域づくり部会)
議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和5年7月28日(金) 10時～11時30分
2. 場所：石川県庁 1109会議室
3. 出席委員(五十音順)：

伊藤 数子	特定非営利活動法人STAND代表理事 (Web出席)
井村 辰二郎	株式会社金沢大地代表取締役
岩城 慶太郎	アステナホールディングス株式会社代表取締役社長
興津 泰則	DIBC Office KYOZU代表
志村 恵	金沢大学副学長
しもおきひろこ	フードコーディネーター
高峰 博保	能登定住・交流機構代表理事 加賀白山定住機構事務局長
中巳出 理	株式会社Ante代表取締役
早川 和良	石川県観光総合プロデューサー
水野 一郎	金沢工業大学教育支援機構教授
水本 協子	石川地域づくり協会運営副委員長
森 文厚	一般社団法人日本旅行業協会中部支部石川地区委員会委員長

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
石川県成長戦略最終案について
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- | | |
|-------|-------------------|
| 資料 | 石川県成長戦略最終案 |
| 参考資料1 | パブリックコメントの結果 |
| 参考資料2 | 第3回石川県成長戦略会議の主な意見 |
| 参考資料3 | 第3回石川県成長戦略会議議事録 |
-

1. 開会

2. 議事

(事務局から会議資料に基づいて説明)

3. 意見交換

【森委員】

今、見させていただいて大変素晴らしい出来上がり、仕上がりと感じております。

先般、自民党の港湾議連の会合に出させていただいた中で、梶山議員のほうから石川県の観光政策に対するお褒めの言葉をいただいております。特に港、日本海側では金沢港とJR金沢駅が最も近いということで、石川県、北陸三県だけでなく長野を含め、いろんなところからクルーザー、レール&クルーズを目的にしたお客様が増えているというようなお話が梶山議員からございましたけれども、何よりも本県で申しますとJR金沢駅が観光客にとって大変分かりやすい駅の出口になっている。以前は「東口」「西口」という表記だったのが、現在は「金沢港口」「兼六園口」というふうに、観光客にとって大変優しい、先進的な観光施設というか、案内表記になっているというお褒めの言葉をいただいております。

また、先週には私どものほうへ立教大学の観光学部の生徒さんがケーススタディに訪れまして、今日午後からも日本大学の国際観光学科の学生さんが訪れるわけですが、お話を聞いておりますと、今は全国的にも文化観光というものが主流となっている中で、特に石川県においては先進した中で我々はその勉強をしたいということで学生さんが現れてくることになっております。

引き続きそういった部分をもっともっと全国、世界に発信しながら、石川県の良さをもっともっと我々業界一同一丸となって頑張りたいと思っている次第でございます。

【水野座長】

ただいまの分かりやすいという話がありましたけれども、県と市でほぼ40年ぐらいかけて都心軸を通して、それを武蔵のほうまで真っ直ぐ持ってくるという。駅を造るときもその話をずっと積み重ねてまいりました。そういう意味では分かりやすい都市にして、それから分かりやすい名称にしてというのは、来られた観光の方々に対しては最低限必要な施策ではないかと思っております。

【水本委員】

拝見いたしまして、時代に即応したテーマとか、未来を見据えたテーマとかがたくさん盛り込まれておりまして、本当にぎりぎりまで精査されたというご努力が垣間見えました。

県民の皆様には、この同じお言葉ではなかなか難しく伝わりにくいかもしれませんが、表現を変えて、県民全体でこの目標をクリアして達成感を味わえるようなことになればいいなと思っております。

そのためには、市町の方々にもご理解が必要だと思っております。実は昨年、とある市町のまちづくり公募で女性向けのポップアップ講座をさせていただきました。女性の活躍というのが非常に言われておりますので、女性が就労していく上での新しい知識であるとか、

あとは自分たちが起業しようとか、興味のあることをもっと引き伸ばしていったそれを仕事につなげていこうということを目的とした講座を、メタバースとかそういったことをテーマにしたものを開催させていただきましたけれども、ご理解がない場面もありまして、ちょっとその辺が寂しいなと思っております。ぜひ市町の方にこれを実行する意味とか意義とかその効果とかを理解していただけたら、もっともっと広がって豊かな達成感が味わえるのではないかなと思っております。

地域づくり協会ですらいろいろと活動、また自分の身近なところで活動させていただいておりますけれども、最近はやはりよく耳にしますのが、子ども食堂とか地域食堂とか、防災とか多世代交流とか、国際交流とか福祉とか、そういったことが耳にどんどん入ってきます。皆さんはそれぞれ得意な分野とか興味がある分野でつながりを持って、自分の生きがいとか幸福感とか、地域力を高めていこうということが非常に見えまして、応援をしている次第です。

その中でもやはり人手不足とか人材が必要ということになっておりますので、運営の方法、本当にもう20年前、30年前の方法を見直して新しい方法を取り入れていくことが私たち努力として必要かなと思っております。そのためには県の方のご支援も必要です。

質問が1つだけあります。82ページのKPIの表の一番下に、県とNPOとの協働件数があります。このNPOというのは、法人ではなくて活動団体のことと捉えてもよろしいのでしょうか。法人でなくても県とどんどん協働していったら、このKPIの達成に貢献したいと思っておりますので、NPOなのかNPO法人なのかの質問です。お答えいただければと思います。

【酒井県民文化スポーツ部長】

この一番下の県とNPOとの協働件数におけるNPOは、NPO法人だけではなくて、さらに広いNPO全体ということで記載をさせていただいております。

【水本委員】

ありがとうございます。

地域づくりを行う方々にもどんどんPRしていきたいと思っております。

【水野座長】

ただいま水本委員のほうから、こういうことをやってほしいという項目ではなくて、それを推進するのにあらゆる世代、女性も含めて子どもも老人も入ると思うんですけども、あらゆる地域、そういう県民一人一人の営みの積み重ねみたいなものがどれだけできるかがこの豊かな地域づくりの部会の大事なことではないかというお話だったかと思えます。そういう営みのほうもみんなですべていこうという気持ちが盛り上がるような、そういう施策が必要かなと思っております。

【早川委員】

幸福度日本一に向けた石川の未来の創造ということで、素晴らしいものがまとまったと思っております。

これを県民の皆さんに伝えることがすごく大切なことになってくるのかなと思って、そういうことも考えていらっしゃると思えますけれども、こういうふうに行くんだよという、そういうメッセージを県民の皆さんに伝えていくことが大切かなと思えます。

つい最近、2週間ほど前ですかね。日経新聞で石川県日本一というのがありまして、何かといいますと、地元の大学の進学率が日本で一番多いのが石川県だそうです。その教育の充実と、あとはやはり石川県の人が石川県の大学に行く、そんなような循環が生まれていてすばらしいなと思って見ていました。

観光では文化観光ということは今推進しておるんですけども、これはこの資料とはまたちょっと違うかもしれませんが、文化と言ったときに、文化とは鑑賞するものとか、ありがたがって見るものとかではなくて、文化が何か次の産業を興していくといいますか、文化が経済と関わってお金を生み出していくというようになっていきたいなと思っております。

スポーツでもそうだと思うんですけども、体を動かすのはすばらしいことです。健康維持ですばらしいことです。でも、その先にプロリーグがあって、それが産業として石川県の中で広がっていくというような例が幾つも広がっていくというようなことが生まれてきたらうれしいかなと思っております。

【水野座長】

文化が産業にというのは、石川県の大事なテーマですね。

ほかの県ではなかなか到達できないんですけども、これをずっと目標にしてやってきているようにも思いますね。明治以降にしても。

【早川委員】

それが維持していくことで継続していくことだと思うんですよ。

【水野座長】

非常に大事なご指摘をいただいたと思います。

【中巳出委員】

石川県は陸海空で共に充実し、文化伝統もとても豊かで、能登と白山などの豊かな自然にも恵まれて、そういう石川を大切に、それをいろんなこと、膨大な資料を見せていただいたんですけども、それは全て集約されていると思うんですけども。

県民一人一人が皆さんそれに誇りを持って充実し、それに向けてこれを推進していけることが大切かなと思っております。お題目だけではなくて、皆さんに浸透し、そして皆さんが誇りを持って自覚し、推進していけることが最も大切かなと、願わくばこれが着実に一つ一つ推進していけたら幸せかなと思っております。

【水野座長】

先ほどから出ております、県民一人一人の営みの積み重ねみたいなもの、そのところに豊かさが入ってくると物すごいパワーになるというお話だったかと思います。

【高峰委員】

2つだけお話があって。一つは、50 ページに、石川県の優れた文化の継承と発展ということが書いてあって、その中に輪島塗、山中漆器、加賀友禅、九谷焼などの伝統工芸の継承と発展と書いていただいているんです。これを本当に具体化していくためには、県は伝統工芸に関して人材育成の拠点をおつくりいただいています。そこに研修に来られた方々が地域に

本当に根づいていくためには、県がされている研修機関としての機能プラス、やっぱり地域にちゃんと定着していける受皿整備みたいなことを進めていただかないと、せっかく県外、場合によっては海外からも研修を受けに来られている方がいらっしゃるんですけども、その方々が結局帰ってってしまうということが頻発しています。ですから、やっぱり研修施設がある周辺自治体とももっと連携を進めていただいて、彼らが研修が終わった後、ちゃんと地域に根づいて創作活動をしていけるような受け皿の整備を進めていただきたい。

ですから、この戦略は県がおまとめになっているものなんですけれども、その後これを具体化するためには、個別に地元の自治体の皆さん方とこれを本当にどう具体化していくか、その実体をつくるということについてぜひ具体的な話を進めていただきたい。それがないと従来と同じようなことで終わってしまうのではないかというのが一つあります。

もう一つは、79 ページに、これは観光に関わることなので全く何もこれまでコメントしていないので今さら言うなと言われそうですけれども、個性豊かな地域づくりの中に森林公園の魅力向上というのが入っているんです。県が整備された公園の一つとして森林公園というのが、50 周年ということもあるからここに代表的なものとして掲げていただいているとは思いますが、県が整備されたものとしては、加賀にある県民の森がございます。輪島には健康の森というのものもあるんです。地域の皆さんがここを指定管理で管理運営されているという現状があります。

こういう県が整備されてきた、それ以外にももちろん辰口の丘陵公園とかたくさんあると思うんですけども、そういう森林を生かした公園の整備活用をもっと進めていくということを、森林公園だけではなくて、それ以外の公園についても県としては今後継続的に取り組んでいきますよというふうな一言を入れておいていただけると、それぞれの施設に関わっている皆さんにとっては、我々が関わっている地域の森林公園について県はちゃんと目配りをしていただいているということが伝わるし、地域でもっとこれを活用していこうという機運をつくっていただけるのではないかという気がしますので、何かそういうようなことを1 個加えていただけるといいかなと思いました。

【水野座長】

具体的にいろいろご意見をいただきました。

先ほどの工芸の話もそうですけれども、学都金沢もそうで、いっぱい日本中から学びに来ているんですが、ここに就職するかっていうとなかなか難しい。でも、それは全部やるのも無理だし、そういう学びの場としての石川県というのは日本の中でも大きな存在になっていると思います。ですから、その後を含めてさらにとというようなご意見がございます。

【しもおき委員】

前回、井村委員からも食文化入ってないよという指摘があって、53 ページのほうに豊かな食文化の振興ということを入れていただいて、食文化推進本部の立ち上げということで、さらに前進したなと思ってとてもうれしく思っています。具体案として、石川県の食文化への理解を深める機会の充実というのは、これは県民全体プラス石川県を訪れる方へのということなんでしょうかね。底辺の底上げというか、我々石川県民が幸せを感じてこそそのナンバーワンかなと思うので、その底上げをもっともっと充実させていって、豊かさを感じていくのが食文化かなと思います。

私、先日、金沢学院大学のこれから管理栄養士を目指す子たちに北陸の食文化という講義

でレポートを書かせて、その中で郷土料理のこと全然知らなかったとか、食べたことがないとか、これから栄養士になって一人前にそれを提供していく子たちがこのレベルやったら、ああ、怖いな、10年後どうなんかなという不安を感じた授業の一つでした。プロを育成する者として、もっともっとやっつけていかなんことあるなということを感じました。

この食文化推進本部の立ち上げが中心となって、何かもっともっと底辺の底上げであったり、子どもたちに向けての指導であったりというのが充実していくといいなと思いました。

【水野座長】

今のしもおき委員について、事務局から何かございますかね。食文化、食育含めて食について。今回、大きく充実して出てきていましたので。

【野崎産業政策課課長補佐】

食文化推進本部については、4月末に立ち上げさせていただきまして、第2回も行いたいと思っているところでございます。いただいたご意見については検討させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。ありがとうございます。

【志村委員】

取りまとめ、本当にご苦労さまでした。少しだけコメントとお願いをしたいと思います。

まず、87 ページの一番下で、細かいのですけれども、いろいろな交流をしてグローバル人材を育成するということですが、留学生は海外の学校との交流もよろしいのですが、せっかく県にたくさんの居住外国人がいらっしゃいます。そういう方々をリソーサーとして使うことも入れていただいて、留学生のところに外国人の居住者を入れていただくといいかなと思います。

というのは、118 ページに外国人の居住者の社会参画のことをきっちり入れていただいています。これはとても大事なことで、その実現の一つとして、例えばこういうことに参加していただくというのがいいのかなと思いました。よろしく申し上げます。

それから 92 ページに、外国人のお子さんたちの教育支援についてしっかり書いていただきました。15 年間にわたって特に日系ブラジル人の子どもたちの学習支援をやってまいりました。こういう形できっちり書いていただくことは本当にうれしいことです。

それから 117 ページのところに、一般の外国人居住者たちの日本語の支援と生活相談のことをしっかり書いていただきました。この充実は本当に外国人が県民として定着していただくためにとても重要なことだと思っています。ありがとうございます。

その上で、よその部会の話になってしまうかもしれませんが、101 ページのところをちょっと見ていただきたいと思います。これは子育て支援のところですが、私は、全国の子育て支援の中間支援団体である日本多胎支援協会の代表理事もしておりますが、ここのところでちょっと気になるのは、子どもさんあるいは育児の、あるいは出生するところのカップリング等が、ずいぶん結婚を前提とした話だけに見えてしまうんです。ここの部会は個性豊かな地域づくり部会です。個性豊か、様々な多様な家族の在り方、家庭の在り方というのは、これが豊かさの根源だと思っています。世界に目を転じますと、比較的出生率のいい社会、国というのは、例えばフランスの P A C S とか、いろいろなカップリングの制度を認めた多様な家族政策を打っているわけで、結婚を前提と見えてしまうのは、ちょっと時代に逆行しているし、非常に厳しい状況を生みかねないと思っています。

それから 103 ページのところ、全ての子育てをする家庭の支援的なことが書いてあって、これ当然、外国を背景に持つ居住者のことも入っていると思っておりますけれども、人口のことを考えたときにますます外国を背景を持った、そういった定着外国県民が増えていきます。その中で、やはりそういう人たちも子育てをしていくんだ、そして亡くなっていく看取りのところも含めて、人生の全てのスパンで支援していただけるような頭、思想を持っていただければと思います。この全ての子育てというところに外国人の家庭も入っていると私は思いますけれども、そこをぜひ意識していただければと思います。

いずれにせよ、石川県が様々な背景を持つ人たちがみんなと一緒に頑張っていけるような、そういう県になるとうれしいなと思います。

【水野座長】

豊かな地域づくりの部会から外だというお話ありましたが、お話そのものは豊かさのためのお話だったかと思えます。今、外国人の丁寧な支援についてご意見ございましたが、事務局のほうから何かその件に関してございましょうか。

【竹内観光政略推進部長】

国際交流のほうで進める多様な社会、多文化共生社会という視点での取組は、この中、この部会の中身の話としまして、ここはやはり外国人住民の方々は当然に県民として平等に多様性がある中で我々としてもしっかりとサポートしていきたいと、こういう思いで市町ではなかなかカバーできないところを、県が全体のために日本語教育とかいろいろちょっと高度な相談でありますとか、そういうものをしっかりとやっていきたいということで今回取組としても結構強化をさせていただいたところでもありますし、子育ての案件でありましてそれぞれの部会で全ての子育てというところは、当然に外国人の住民の方々も念頭に考えていると思いますので、改めて今回こちらでこういう意見も出たということをそちらの部会のほうとも共有したいと思います。我々は我々としてこれをこの視点で今回挙げているところにおいて、またそういう視点で全て隔てのない形の人の多様性を意識した形でまた考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

【水野座長】

県のほうも努力するというところでございますが、多分5年後、10年後を考えると、外国人との関係というのが石川県の中でも随分変わっているということは予想できます。そういう意味では、その方向を模索していくことに取りかかっていくことは大事な項目ではないかと思えます。

【興津委員】

今回の報告書は、大枠では、非常にいいものができたなと思っております。ただ一方で、個性豊かな地域づくりということからすれば、石川県民に対しては非常に大事な表題と思っております、一方で同時に、交流人口を増やすということも重要な課題で、その為にはいかに全国発信あるいは世界へ発信していくかが今後の課題です。

それから、各項目での方針や考え方は非常にいいんですけども、横の連携をどうしていくかというのが今後大事な問題だと私は感じております。ややもすると、それぞれだけが独り歩きするのでは、実はこの豊かな地域づくりとしてはなかなか厳しい。すなわち、人であ

り、料理であり、観光であり、文化であり、それが横申しが刺さるような形での連携をぜひ今後やっていっていただきたい。

特に、地元のことだけを意識して、そこだけを見た視点になった行動計画であったり、K P I が出がちなんです。そのことも大変重要なんですが、一方で経済効果を考えた場合には交流人口がいかにか増えるかということが実は県にとって、県民にとっても非常に大事な視点でございます。要は、住んでよし、訪れてよしということが一方で大変重要な表題としてあるべき目標ではないかなと思っております。

したがって、私はやはり県民にとって自慢のできる石川県、自慢のできる文化、これをどう目指していくかということが基本的に最後は交流人口の拡大につながってくると思います。

もちろん、そこで先ほどご意見あったとおり、在日の海外の人たちの活用も含めて、地元での活用というのは大変重要になってくるわけですが、もう少し視点を2つに置いて、地元へ向けた視点と全国あるいは世界に向けた視点、この視点、それから連携、何一つ実は欠けてもこの豊かな地域づくりということにはならないと思っていますので、大変ハードルの高いことを申し上げますけれども、いずれにしても独り歩きのしないように連携をしつつ、全国、世界に発信できるような磨き上げを再度して、石川県民の皆さんが自慢できるものをつくり上げていっていただきたいと思っております。

【水野座長】

文化というのは、ある意味、K P I だけでは語れないところがあって、そのクオリティを求める、それを極めていくとなると、県民一人一人の資質が問われるという、そこまで行ってしまいます。ですから、そういう意味で言うと、先ほどから出ていますように、この計画をいろいろあるけれども、縦糸、横糸絡んでいって、それぞれ独立した項目でないとおっしゃっていましたが、それはつながっていって、どういう全体像として石川県が見えるようになるか、あるいはその中で生活できるようになるか、そういうクオリティの勝負というところもありますね。文化というのはなかなか難しい。

【岩城委員】

まずは資料の事前配付をしていただいたことに大変感謝を申し上げます。ありがとうございます。そして、この資料の中身、非常にいいところたくさんあって、挙げれば切りないんですが、より改善できる余地がある点について5点お話し申し上げます。

1点目は、幸福度日本一、こだわるんですが、ふんわり幸福度日本一を目指しているのか、本気で幸福度日本一を目指しているのかどっちなんでしたっけというのは確認したいと思っています。ふんわり幸福度日本一を目指すのであれば、K P I は別に設定する必要ないんですよ。「幸福度日本一っぽいんですね、石川県は」と言えばいいんですけど、本気で幸福度日本一を目指すならば、幸福度というのは何によって量られるかというのを明らかにすべきだと思います。そうじゃないと比較ができない。達成できたかどうか分からない。10年たつてこの戦略を推進して、結果的に、「じゃ、石川県は幸福度日本一になったんですか」と問われたときに、「いや、分かんないです」と言ったら、これ物すごい無駄になると思うんですよ。物すごく無駄です。なので、ふんわりなのか本気なのかは明らかにすべきかと思っております。

2つ目、投資の観点。自治体の経営において投資の観点があるのかないのかを知らないん

ですけれども、この10年間で6つの戦略と2つの横断的戦略を行っていくと書いてあります。これらのそれぞれの戦略の実現に対して、この10年間で一体幾ら投資できるのか、一体どれくらい投資するつもりがあるのかというのは、ちょっと今すぐには出せないのかもしれませんが、いずれ明らかにすべき項目ではないかと思っています。そうでないと、本戦略実現の蓋然性の判定が全くできない。本当にこれって実現できるんですけどつけみたいな。実は戦略2には5,000億円突っ込むけど、戦略3には50円しか突っ込みませんみたいなことがあると、戦略3は多分実現できないんですよ。なので、投資の観点というのがどうなっているのかを明らかにすべきかと思います。

3つ目、KPIの進捗管理です。KPI設定していただいて大変ありがとうございます。これで大分この戦略が進んでいるのかそうでもないのかが分かるようになりました。ただし、このKPIに関しては5年で1回レビューをして、そして1回その中間で見直すというようなお話がありまして、それは多分恐らく変わってないんだと思うんですが、私の立場としてはKPIの進捗は四半期に一度開示すべきであると考えています。ステークホルダー、イコール県民に対して開示すべきではないかと思っているんですが、ちょっと四半期はいくら何でも大変だということであれば、せめて年次でこのKPIが開示されている必要があるのではないかと。別に戦略の見直しを毎年やれとは言いません。5年に1回でいいと思います。いいと思いますけれども、このKPIが本当に進捗しているのかどうか、えらい乖離していないかどうかは1年に1回は見直すべきかなと思っています。

以降は当部会の話から少し離れたところについてコメントさせていただきます。女性活躍という言葉が私大嫌いのごさいます。なぜ嫌いかというと、我が国日本においては有史以来ずっと女性は活躍し続けているんです。女性が活躍していない時期というのはないんですよ。なので、今さら何を女性活躍と言っているんだと思うんですが、これは内閣府が使っている言葉ですからやむを得ないと思いますが。

石川県に目を向けてみると、石川県は共働き率が全国4位なんです。なのに男性の家事関与時間というのは全国39位なんです。つまりどういうことかということ、石川県はとと楽なんです。能登はとと楽ってよく言うんですけれども、石川県全体とと楽なんです。要するに、家事・育児を放棄している男がやたら多いんです。これは家事・育児をしないという習慣を消失させる必要があるだろうと考えています。

そのためには何をしなくてはいけないかというと、男性の育児休業の取得率85%はKPIとしてすばらしい、もちろんかなりアグレッシブでいいというふうに思うんですが、現状12%というのもまあまあ高いと思うんですけれども、ちょっと根本的に家事・育児をちゃんとやる習慣をつけるためには、例えば、男子高校生に家事・育児の授業をすとか、家事・育児の成績がいいとめっちゃめっちゃもてるみたいな。「うわ、すげえ、あの子格好いい」みたいな感じになるとか。あとは社会に出た後は家事・育児しない男性の地方税率を上げるとか、それぐらいのことをしないとイケない。より具体的なことをしなければいけないのではないかと考えています。

ほかにも、例えば育児休業時の給料補填であるとか、ベビーシッターを担う人材の外国人人材の登用の積極的呼び込みみたいなものも効いてくると思いますので、実際、外国人のベビーシッターさんいいんですよ。うちの妹も使っているんですが、フィリピン人でベビーシッターをお願いしているんですけれども、英語でやってくれるので自動的にバイリンガルになるというすばらしい効果もあるんですが。そういうちょっと具体的な関与が必要ではないかと思っています。

最後に、人づくりです。リスクリングというもの。この戦略の中にも言及がありますが、リスクリングは産業界だけのものではないと考えています。何か産業界の要望を踏まえたリスクリングの促進を支援するみたいなことが書いてあったんですけども、リスクリングって産官学全部やらなくてはいけなくて、別に産業界だけスキルが低くて、学官はすごい高いとかいうわけではないと思うんです。リスクリングは非常に大事です。

その意味では、もっと県庁の職員の皆さん、あるいは基礎自治体の職員の皆さんへの教育投資を積極的にすべきではないかと思っています。例えば国内外の大学への派遣を通して専門知識を獲得していただくとか、DX教育とか外国語教育とかをどんどんやっていただいて、ここにいる人たちは全員バイリンガルですと。しかも何かヘブライ語までしゃべれますみたいな、そんなようなことができるよりマネージがしやすくなるのかなと思っています。

あとはほかにも企業などへの出向、産業界の出向などを通してOJTしていくとか、そういったような県庁職員のリスクリングも非常に重要だなと考えております。

【水野座長】

多岐にわたる5つの項目のご指摘がございました。何かその件に関して事務局からお話ございましょうか。

【竹内観光戦略推進部長】

全体の幸福度の定義というのはトータルの問題として我々のほうでなかなか答えにくいなと思いますが、例えば、投資、どれだけ予算を投入していくかということについては、県などは単年度会計という話があって、その弊害もあって結構複数年にまたがって財源を明確に確保するという、例えば、ファンドとかそういうものはむしろ単年度会計の弊害を少し解消するような形で、今後、例えば5年間とか明確な形でこれだけの財源を確保するから、むしろしっかりと提案してきてくれとか、安心して申し込んできてくれとか、そういう補助金のスタイルを結構設けているというのが一面としてあります。

また、恐らくKPIの進捗については5年ごとの見直しはトータルの話としてはあるんですけども、進捗管理という形で毎年たしか長期戦略については状況を報告するような形になってございまして、知事のほうもこれは別に5年たったから見直すのではなくて、毎年でも見直すんだ、みたいなこともおっしゃっていただきましたので、そういう意味では毎年の管理の下にやっていくなど、なかなかタイムリーな情報管理が難しいものもありますので、少なくとも1年ごとのそういう管理をしていくことになるだろうと、このように思います。

【水野座長】

先ほどからいろいろな項目のご提案と、それからそれをどうやって実現していくかというので県民一人一人が参加していくというようなことがありました。今のご指摘では、今度、その実現目標みたいな、達成度にどうやって近づいていくんだというような、投資とかKPIのチェックとか、あるいは幸福度日本一の内容ですね。強度と言ったらいいんでしょうか。そういったものを含めて人づくりあるいは女性の話、様々でございます。項目ではなくて、やっぱりどうやって実現していくかということが伴わないと、こういう計画は絵になってしまうので、やはりリアリティを持たせて進めていくという、非常に大事なご指摘であったかと思えます。

先ほど早川委員からも産業と文化を結びつける話が出ておりましたけど、石川県のいろんな技術も単なる寒さ、暑さのための繊維産業ではないし、カロリーや栄養のための食文化でもないし、もっともっと幅広い豊かな文化を持っていて、その存在は次世代にもインターナショナルにもつながっていくという、そんな視点があるのではないかと考えています。

そういう意味では、日本の国が成長していくのに合わせて自分の地域も成長していくという話ではなくて、自分の地域はこういう地域なんだ、石川はこういう文化、こういう自然、こういう県土を持っているんだという、その辺のところがかうまく出てくると石川らしいというテーマがはっきりしてきますね。今大事なご指摘であったかと思っております。

【伊藤委員】

今日は伺えなくて申し訳ありません。よろしく願いいたします。地震や大雨の災害、皆さんその後いかがでしょうか。本当に心からお見舞い申し上げます。それから、今日の会議の資料で、手元にいただきまして、本当にたくさんの、お考えの下にお取りまとめいただいたんだなと思って感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。

冒頭に基本目標について。この基本目標を気持ちを持ってかみしめて読んでみると、非常に推敲されたすばらしい文章だなと感じました。新たな発想で果敢に挑戦していくことで、石川の新時代を切り拓いていきますというところに非常に強い意志を感じます。

この気持ちを持って、全 180 ページを読み進めていきますと、ああ、幸福度というのはこういうことをいうなというのをかみしめて感じ取ることができました。果敢に挑戦するところがにじんできて読み物のように感じた次第です。ともすると、こういった文章というのは難しく、なかなか一字一句読み進めるのに時間もかかったり、苦慮したりするものですが、非常によい戦略ができたと思った次第です。

まず1点は、先ほど変更点のご説明でもありましたパラスポーツの件なんですけれども、いろいろ盛り込んでいただいてありがとうございます。項目を盛り込むということより、スタンスが少し変わっているところが私はとてもうれしく思っています。

ご案内のように、皆さん、障害のある人がスポーツをすることにはもちろんほとんどの人にご理解があり、周知のことではありますけれども、石川県のパラスポーツのチームがあること、例えば、ツエーゲンとか金沢武士団があるように、パラスポーツのチームもあって、そういう人たちが身近にいるんだ、やっているんだということを知っていただくということは非常に大きなステップだと思っています。それを実現するために、既に石川県の中では障害者スポーツ行政の一元化を既に実現して、文化スポーツ部という中で取りまとめているということで、推進も非常にスムーズにいくことなのではないか。大変なご苦労の中でやっていただくんですけれども、いいことだと考えています。とても重要な点だと思います。

ここでK P Iが出てくるんですけれども、スポーツにはする、見る、支えるという関わり方があるとされていますので、今でなくていいのですが、これから将来スポーツ行政を進めていく中で、支えるという観点での数値目標、K P I も掲げてみてはいかがでしょうかと思います。支えるだと、例えば、スポーツ大会のボランティアに関わる人たちの数値であるとか、あるいは各チームのサポーター数がどんなふう to 増えているなどです。

2つ目は、インクルーシブ教育のところ です。戦略4の中に掲げられています。私、このたび、石川県のインクルーシブ教育アドバイザーを拝命いたしました。具体的には、今月行ってまいりましたけれども、いしかわ特別支援学校と、県立向陽高校、これは普通高校です

ね。ここが2年後に校舎を一つの敷地内に、一部ですけれども持ちます。ここで支援学校の生徒と向陽高校の生徒がインクルーシブな教育を実現していこうという取組が、2年後に向けて既に始まっていて、合同授業などが始まっています。

ご案内のように、特別支援教育を受ける児童生徒は全国的に非常に増えているんです。これはいろんな面がありますけれどもいい面もあって、手厚い教育を受けることができるというこれはいい面で必要なことです。手厚いだけけれども、みんな時が来て卒業するんです。卒業すると社会に出ます。いろんな人たちがいるところに出ます。その卒業した後になのかということも教育の中でやっていこうというのがこのインクルーシブ教育の合同授業の今の取組です。障害がある人も障害がない生徒も、イベントではなく、文化祭とか体育祭ではなく、日常的に玄関が一緒だとか食堂が一緒だとか、毎週一緒に授業があるとか、日常的にいろんな人がいるんだという中で教育を受けていくことが非常に重要です。この取組を石川県は全国に先駆けて積極的にやるとなっていて、ここに非常に大きな未来への期待、次の世代への期待があると思います。障害のない生徒さんたちが障害のある生徒さんたちと日常的に授業を一緒に受けたことで、例えば、地域社会に出る、企業に出たときにインクルーシブな社会のリーダーとなっていくという、そういう存在になり得ることも考えられる。そんなことを考えながら進めていきたいと思っている次第です。

最後に1つだけですが、オール石川という言葉が中に出てきました。つながりを強めていこうということに私は非常に共感を覚えました。オール石川と標榜するということは、まだオールになっていないのかな。つながっていない感を自分たちも感じているのかなということとは否めない。だからこそ勇気の要るオール石川という言葉だと思います。しっかりつながって行って、やがてこのオール石川という言葉が要らなくなる日が来ることを期待して、一生懸命取り組んでいきたいと思った次第です。

【水野座長】

項目としてのパラスポーツということよりも、やっぱり県民が支えるとか、先ほどのインクルーシブ、みんなできつくっていくとか、あるいはその全体像としてのオール石川、県民がそういう営みができるのか、やるのかという、そういう積み上げがオール石川になって、全体が豊かになっていくというお話ではなかったかと思います。

一通りご意見を伺ったんですが、最後、私のほう少しお話ししたいと思います。

非常に多くの項目を皆さんからいただいて、それを事務局のほうで非常によく整理していただいて、しかもいろんな論理の柱とか目標の柱立てとか、そういうのをきちっと整理していただいて、そのことが皆さん非常にいいふうにまとまっているなというのが今日の大きな意見であったかと思います。

もう一つは、それを誰がやるんだ、どうやるんだというような話が今日は中心に多く出たと思います。参加していくこと、それから極めるように行動していくこと、それから県民一人一人が何かできるのではないかとというようなこと。それから、文化から産業のほうへ行ったり、産業のほうから文化へ来たり、いろいろ行き来がある。農業遺産は農業というよりも地球環境の問題ではないのかとか、ジオパークも地球の歴史ではないのかというようなことを含めて、何か石川県の営みが広がってきそうな、そんなようなご意見もいただきました。

それで、全体的に思いましたのは、今度のこの会議が、親会議もそうですけれども、成長戦略会議という形で言われているんですが、今の日本、世界含めて成長というのはどうなのかなというのはパブリックコメントで見たときにも出ていましたけれども、本当は石川県み

たいなところは成熟のほうに合っているなという感じもしておりました。

今日のご意見もそういったところがあるのと、我々の第3の部会はそういう豊かさを求めているので、成長ということよりも成熟に近い。でも、KPIで数値を示すことは成長も成熟も含んでの話でございますので、その辺も含めて、やはり石川県、文化立県、文化観光やるなら、県民一人一人がそれに対して貢献できていく、そんなような地域社会をつくらうじゃないかというのは全体的なご意見だったかと思います。

私もそういう意見に賛成で、この部会の大きな筋道としては、みんなでつくっていき、分かった、それぞれの人の立場でそれぞれのやれることで少し進んでいきではないかという、そういう戦略会議になればいいなと思っております。

一応一通りご意見いただいたんですが、まだちょっとこの点を強調したい、あるいはこれを提案したい、あるいはこれを問いたいというようなことがございましたら、どうぞ。

【岩城委員】

これ、今後公表されていくのは、この全文が公表されていくことになるのでしょうか。そうすると、提案というかお願い。この施策ごとに誰に話せばいいのかというのが分かる就非常にご協力しやすくなるなと思っていまして。例えば、分からないですけれども、今ちょうど開いたのは戦略5の施策1ですけど安心して子どもを産み育てることができる環境の充実というのは、県庁で言うとどこの部課が担当されているかというのがどこかに書いてあると、そこに電話すればいいということが分かりますので。それか、あるいは成長戦略総合お問合せダイヤルみたいなものがあったらいいんですが、そういうご検討をいただければなと思っています。

【山口企画振興部次長】

ただいまの岩城委員からのご提案につきましては、十分検討させていただきたいと思っております。公表につきましては全文公表する予定でおりますので、また概要版なんかも作りながら広報にも努めたいと考えております。十分検討させていただきます。

【岩城委員】

一方で、あんまり電話番号とか書いてしまうと多分皆さんの仕事の邪魔になると思うので、いわゆるインタラクティブになる仕組みというのがこの中に実装されるとより分かるかなと思いますので、よろしく願いいたします。

【水本委員】

61 ページのパラスポーツの部分です。非常に支える人というのは大事ななと思っています。パラスポーツの審判員の免許とか、ライセンスみたいなものって1級とかたしかあったような気がするんですけども、この講座に例えば参加することによって何かライセンスがもらえるとか、1級になるとか、次2級目指そうとか、そういった動きが出ればパラスポーツ全体の拡大になりますし、またそういった方々の名簿もできたりしますので、そこでまたつながりが生まれて、また新たな大きな力になるのではないかと思います。もしよろしければ、そういった講座の中にここに参加すればこういったライセンスがもらえるとか、もっとパラスポーツを支えていきこうという機運が高まるような工夫を一つ加えていただけたら大変ありがたいです。

【酒井県民文化スポーツ部長】

パラスポーツの普及及びそれを支える人については大変大事な課題だと思っております。今回のK P Iの中にも日本スポーツ協会の公認指導者数、この中にも入っているところがございます。そういったものの指導者も増やしていくといったことについては、いろんな施策の中でしっかりとお伝えをしながら、いろんな人に普及して参加していただけるような仕組みをしっかりとつくっていきたいと思っております。

【高峰委員】

さっき成長戦略の話というのはあったんで、パブリックコメントの中でいいなと思ったのは、タイトルを成長戦略ではなくて未来戦略とか未来創造戦略とされたらどうですかという提案をされている方がいらっしゃるんですね。

民間の企業の人だけがクリエイティブな人材になればいいという話ではないという話もさっきあったと思うんです。ですから、県の人から、自治体の職員から、企業の人から、いろんな団体の人も含めて、やっぱり未来をつくっていくという観点でこれからの仕事を考えていただくということを県民に広く普及するのであれば未来創造戦略のような概念にしたほうが我々が取り組もうとしていることの分かりやすさが出てくるかなという気はするので、単なる成長戦略よりはそちらのほうが面白いのかなという気はします。

【山口企画振興部次長】

今のご意見でございますけれども、成長戦略ということでこうした会議もずっと続けております。何度も委員の皆様方にもご出席いただきながら、仮称ということでしたけれども、成長戦略ということで大分耳にもなじんできていますし、マスコミの方々に対してもそういう形で広報させていただいております。

今の委員のご提案のほうですけれども、十分ご存じのことかと思いますが、この中の2ページの中で、幸福度日本一に向けた石川の未来の創造といったところも、いわゆるそこを目標にするという形で位置づけておりますので、パブリックコメントの意見も含めて、そういった考えについては十分生かしながら広報なりしていきたいと考えております。

【水野座長】

成長戦略とずっとこの主題でやってきましたので、それをそう簡単に変えるわけにはいかないだろうと思います。

ただ、どこかの巻頭の言葉か終わりの言葉で、回を重ねていくうちに成長だけではなくてというような話があったとかというようなことで少し付け加えておいていただいたほうがこの場の雰囲気なり何なりは伝わるのではないかと思います。

【志村委員】

ダイバーシティ、いろいろな個性の人が集まる県、私どもの大学も今後そこに力を入れていって様々な方々がいらっしゃる、そういうところを目指したいと思っております。

この戦略を実行する県の方々、こちらを見て私は衝撃をいつも受けるわけですけれども、全然ダイバーシティではないと思います。10年後に私たちがここに集ったときに、県の人たちもいろんな人がいらっしゃる。そういうのをぜひ率先して進めていただければ県民もそれ

に励まされて一緒にやっていくと思います。よろしくお願いします。

【水野座長】

確かにご指摘のとおりでございます。そういうところを含めてですが、我々、今、先ほどの支援の話もありましたけれども、5年後、10年後を想像する力を持ってないと、5年後、10年後に向けた提案ができないわけでございます。そういう意味では、今の状況からの想像でなくて、やっぱり5年後、10年後こうなるだろうなという想像力というのは常に必要だと思います。そういう意味で、今の志村委員のご指摘は先ほどのご指摘含めて、やはり少し未来を見ながらという、未来をつくるということとつながる話ではないかと思えます。

事務局としては、この後、どういう段取りでこれはまとめて発表されていくのかどうか、ちょっとその辺を皆さんにご説明いただけたらと思えます。

【竹内観光戦略推進部長】

本日、現時点での最終案という形でありますけれども、今後、来月に成長戦略会議に諮りまして、9月の県議会での議決を経て策定という段取りになろうかと思えます。それまでに今回の部会でいただいた意見でありますとか、そういったことも踏まえまして最終案という形になろうかと思えますし、さらには議会でのまたいろんな議論というのはそれを踏まえてありますので、そこも踏まえて最終案を策定するというような段取りになろうかと思えます。

一旦はそういうような形で議会を経た上で取りまとめ、あとは毎年の進捗、それを見ながら、また適時見直していくと、こういう流れになりますが、まずは9月の議会に諮っての策定という格好で今考えてございます。

【水野座長】

ただいま事務局のほうからご説明ありましたように、そのような形でまとめられていくようでございます。よろしゅうございますか。

それでは、本日は忌憚のないご意見をご披露いただき、ありがとうございました。

今議論したとおりにまとめていただくこととして、この会を終わりたいと思えますが、よろしゅうございますか。

(異議なし)

4. 閉会